

吹田市総合計画審議会
部会での指摘・意見等一覧

【内容】

ルート1（人権・文化）	…… P	3 ~	6
ルート2（福祉・保健・医療）	…… P	7 ~	9
ルート3（子育て・教育）	…… P	10 ~	12
ルート4（環境）	…… P	13 ~	15
ルート5（都市形成）	…… P	16 ~	17
ルート6（安心安全）	…… P	18 ~	20
ルート7（地域経済）	…… P	21 ~	22

ルート 平和の尊さを共有し、一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合うまち

- 1 平和の尊さが実感できています	
1	平和に関連する事業に対して行政がどう関わっていくのか、ということについて示すべきではないか。
2	指標について、平和に関する事業にどれだけ参加者が増えたかなど取組の達成度を検証するようなものにならないか。
3	P38[2 重点取組と行政の役割]の(2)について、 仕組みづくりとあるが、「情報提供など」という文言を、具体的に表記したほうがいい。 「仕組みづくり」と「情報提供」はレベルが違うので、整合を図り、表現を入れるようにしてほしい。
4	P39[4 取組の目標]の指標について、 平和祈念資料館に関する指標が2つあるが、平和祈念資料館の他にないのか。
5	P38[2 重点取組と行政の役割]の(2)について、 仕組みづくりとあるが、「情報提供など」という文言を、具体的に表記したほうがいい。 「仕組みづくり」と「情報提供」はレベルが違うので、整合を図り、表現を入れるようにしてほしい。
6	P39[4 取組の目標]の指標について、 平和祈念資料館に関する指標が2つあるが、平和祈念資料館の他にないのか。
- 2 一人ひとりの命や個性を大切にすると人権感覚が育まれています	
1	P40[まちのイメージ]のキーワードへの対応について、 [まちのイメージ]の表題には「命」「個性」「人権感覚」等のキーワードがしっかりと謳われているのに、[1 まちの現状と課題]や[2重点取組と行政の役割]の中にそれに見合う言葉が見当たらないので、何か工夫があった方がよい。
- 3 すべての人が性別にかかわらずいきいきと活躍し、安心して暮らすことのできる男女共同参画社会になっています	
1	「女性に対する暴力」という表現について 暴力は女性だけでなく男性が受ける場合もあるので、この表現は見直すべきではないか。 女性に対する暴力やDVについては、固定的な性別役割分担を背景とする男女間格差など普遍的な暴力、家庭内暴力ということでは吸収しえないものも含まれており、女性に対する暴力やDVという表記には意義があると感じます。
2	行政の取組が2点挙げられているがバランスが悪い。 ワークライフバランスの推進のために、事業者に対しての情報提供であったり、行政としてどう関わっていくのか環境整備に働きかけを行うことも盛り込んでいただきたい。
3	指標について、行政の姿勢を示す意味から、係長級以上の女性の職員の割合などの指標があっても良いのではないか。

ルート 平和の尊さを共有し、一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合うまち

4	<p>DVの表記について、 DVをカタカナ語が必要であれば、「ワーク・ライフ・バランス」のように併記した方がよい。または、説明があったほうがよい。 DVについて括弧書きされるのであれば、(ドメスティック・バイオレンス)と表記された方がよい。</p>
5	<p>P42の【まちの現状と課題】の1点目の「性別による固定的な役割分担に対する意識」とあるが、「に対する」を外した方がこの文章の意図がより伝わる。</p>
6	<p>P42【1 まちの現状と課題】の3点目について、 「性犯罪などの女性に対する暴力」という文章と並列で「DV被害が」と書かれているが、これでは女性に対する暴力とDV被害が並列するものになってしまう。 セクシャル・バイオレンスを広い意味で女性に対するすべての暴力という意味で用いているのであれば、DV被害もセクシャル・バイオレンスの一つなので、例えば、「性犯罪や～のDV被害」と続けるか、「性犯罪やDV被害などの女性に対する暴力が社会問題化」として全体を括る形で女性に対する暴力を位置づけるかした方がよい。</p>
7	<p>P42【2重点取組と行政の役割】の(2)について、 【現状と課題】で書かれていることと【2重点取組と行政の役割】の内容が繰り返しになっているので、具体的に事業所に対する市の取組がわかるようにできないか。 例えば(2)を「ワーク・ライフ・バランス」と「子育て環境の整備」の二つに分けた上で、具体的に書くか。 あるいは、「子育て環境の整備」は他のところにも出ていて、その後の指標や取組には出ていないので、そこは削って、事業主に対する取組のところだけを書く方がよい。</p>
8	<p>P43【4 取組の目標】の2つめの指標について、 「審議会等委員における女性の割合」とあるので、それに合わせ「市職員の管理職に占める女性の割合」とした方が整合性がとれると思う。 また、「管理職」とは何を指しているかが分からないので、係長級以上とか部長級以上等、明言できるなら、それを入れてもよいのではないか。</p>
9	<p>P43【4 取組の目標】の4つめの指標について、 「事業所の育児・介護休業制度の導入と制度利用者数の状況」の意味が分かりにくい。 はっきりと「就業規則へ明記している事業所の割合」というような表現にした方がよい。 「制度事業者数の状況」について、分子と分母が分からない。 平成23年度に下がっている理由も分からないので、その点をもう少し明確にした方が、数値が活かされると思う。 【指標の考え方】の文章がよく分からない。例えば、「事業所が積極的に取り組むことができるよう、市が啓発を行う必要があり、その姿勢を示す指標を掲載」等とすれば市の取組を示す目標値として掲げていることが伝わる。 まずは就業規則に明記してもらおうという、事業主に市が直接働きかけられる、啓発できるような目標に留める方が現実的であり、そこから始められるべきではないか。 「市はこのような方向で取り組む」ということを示す以上、取組を市が推進することによって効果が表れると考えられることを出さなければならない。実質的に期待できる取組が本当にできるのかどうかを考えた場合、いろいろな数値を挙げるのは止めた方がよい。</p>

ルート 平和の尊さを共有し、一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合うまち

- 4 多彩な文化が身近に感じられるまちになっています	
1	「吹田の文化財をどうしていくのか」という点が書けていない。 文化財 = 遺跡(博物館)、だけではなくもっと広く捉えるべきではないか。
2	財政状況の悪化により「文化財保護」に関する予算が削られ、文化財の荒廃が進んでしまう、 ということを懸念している。 そういったことのないよう、文化財を守っていくという姿勢も必要ではないか。表現の中に市に 文化財が何点あるかなど、具体的な記載があれば読みやすくなるのではないか。
3	文化都市として、文化をどう捉えるのか。内容を整理していただきたい。個別の事業や、個別 の施設ではなく、大くりの方向性を打ち出す必要がある。検討してください。
4	文化団体は「後継者不足」という大きな課題を抱えている。 文化への理解を深めるためには「教育と連携すること」は不可欠であり、実際に短詩コンク ールの応募者も教育現場の取組の度合いによって大きなばらつきがある。そういった点を踏まえ て、教育との連携をしっかりと行っていただきたい。
5	- 4(文化)と -5(国内外交流)の「6 他の施策との連携」の記載内容は似ているが、これ はどのように関係しているのか。
6	- 4全体に関わる、「文化」の捉え方について、 資料-2のP7「文化振興基本計画では、文化の範囲を概ね、芸術～」とありますが、これら を含めてこの部分に説明書きを追加する必要があるのではないかと思います。現状のままで は、少なくとも文化振興基本計画の「文化とは何か」というものが反映されていない。再度、御 検討いただきたい。 広義の意味で文化を捉えなければ、文化全体を捉えることはできない。具体的には、例え ば、[6 他の施策との連携]の「文化活動」や「文化的特徴」等の表現があるが、その辺りで、 ケースによっては狭義の「文化」を使い、ケースによっては広義の「文化」を使っている。広義 の「文化」を前提に置いて、まず「文化全体を捉えている」ということを示しながら、各部分を説 明してもらえれば分かりやすい。 【まちのイメージ】の中に「文化財」という言葉が出ていないので、一般市民には分かりにくい と思う。広義の「文化」を網羅することが必要。あるところは文化財が入っていて、あるところは 抜けている、あるところは狭義の「文化」を使い、あるところは全体で広義の「文化」を使ってい るという状況であり、もう少し整理していただきたい。 【まちのイメージ】の「多彩な文化」という表現が狭義のイメージを持たれるなら、「多様な文 化」という表現にした方が「社会全体のさまざまな」という意味が含まれると思う。「多彩な」とい うと各個別々というイメージを与えるかもしれませんが、「多様な」と表現すると、さまざまなもの を含むという意味があると思う。
7	P44 [2重点取組と行政の役割] の(3)について、 「将来の市民に貴重な文化財を～」という表現になっているが、将来の市民はもちろんのこと、 今住んでいる市民に対しても「文化 財をどう活かすか」という書き方が必要ではないかと思う。例えば、「未永く貴重な文化財を受け 継ぎ、伝承していくために文化財の十分な保存と活用に努めるとともに、芸術文化を活かし たまちづくり、地域文化の創造に役立つよう市民への啓発を図ります」としてはどうか。

ルート 平和の尊さを共有し、一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合うまち

- 5 内外の人々の交流をとお互いの理解を深め、個性豊かな魅力あるまちになります	
1	- 4(文化)と -5(国内外交流)の「6 他の施策との連携」の記載内容は似ているが、これはどのように関係しているのか。
2	コミュニティ通訳ボランティア登録者数について、これまでの推移からすると急激な増加となっているが、どういった取組を考えているか。
3	コミュニティ通訳ボランティアは4ヶ国語とのことだが、実際のニーズに合うように柔軟な取組を進めていただきたい。

ルート 誰もが住み慣れた地域で支え合い健康で安心して暮らせる福祉のまち

- 1 高齢者が健やかに安心安全に暮らしています	
1	高齢者に関する指標で「要介護認定を受けている高齢者の割合」とあるが、介護の必要な高齢者が全員確実に要介護認定を受けているのであれば良いが、実態としては要介護状態にありながら介護保険を利用していない高齢者も多くいるので、この指標は適切でない。
2	介護予防事業への参加者数を増加させるなど介護予防をより進めるということが数値として分かるような指標の方が適当と考える。
3	「高齢者の健康づくり、生きがいづくり」と生涯学習とは密接な関係があり、生きがい健康につながり、それが保険の支出を減らすということに関わってくるという流れが分かるように、表現を工夫してほしい。
4	介護保険の認定を受けている高齢者の割合という指標については、介護保険を抑制するように捉えられないか。
5	介護保険については、必要な人に必要な支援をとということが必要ではないか。適切な指標はないのか。
6	高齢化が進む中で、交通の便が悪いように感じる。福祉巡回バス(きぼう号)が廃止された中でなにか手立てする必要はないのか。
7	「見守り体制を充実させ」とあるが、社協をはじめ様々な団体が行っているが、各団体間での連携は取れていないのが現状である。行政はそういった団体の連携を促進する役目が必要ではないか。
8	介護(保険制度)について、運営主体として行政がどういう方向性を持っているのかが示せていない。
9	介護予防や健康づくりの取組など運営についての意気込みを記載すべきである。
10	自宅で最期を迎えたいというニーズが高まっている中、医療機関と関連機関との連携の中でどう対応するか、方向性について記載すべきではないか。
11	[6 他の施策との連携]について、内容が通り一遍である。例えば、P51とP53の【関連する施策】の【連携の内容】の記述が同一である。本来、P53の方は障がい者という文脈でより深い記述があるべきで、P51は高齢者の文脈でどのように横串が通るかということが記載されるべき。

ルート 誰もが住み慣れた地域で支え合い健康で安心して暮らせる福祉のまち

- 2 障がい者が地域で安心して生活し、さまざまな分野の活動に参加しています	
1	「障がい者に対する市民の理解を深める」とあるが、障がいを持った方との交流を行おうとしても、どういった障がいを持った方がどこにいらっしゃるのが全く分からないのが現状である。
2	個人情報の壁もあるとは思いますが、行政の役割としてそういった壁を少しでも打ち破るようなことを織り込んでいただきたい。
3	指標について、国が法律で定めている「障がい者雇用率」を目標とするのは志が低い。
4	市として障がい者の就労支援に取り組む意気込みを示すような指標の方が適当と考える。
5	指標で「グループホーム」の数値をあげられているが、在宅で生活する方への指標も合わせて示す方がバランスが取れると思う。
6	【6 他の施策との連携】について、内容が通り一遍である。例えば、P51とP53の【関連する施策】の【連携の内容】の記述が同一である。本来、P53の方は障がい者という文脈でより深い記述があるべきで、P51は高齢者の文脈でどのように横串が通るかということが記載されるべき。
7	P52の【まちの現状と課題】の4点目について、【まちのイメージ】 -2の「人権感覚」と密接に関係していると思うので、【6 他の施策との連携】に記述されるべきではないか。
8	P53の【4 取組の目標】の3つめの指標について、「福祉施設を退所し」と書かれると、通常は入所施設を退所するというイメージになる。誤解の生じない表現にされた方がよい。
9	資料-2 P14のNo.11に「障がい者に対する市民の理解を深める」ということについて、【2重点取組と行政の役割】の(4)で「取り組みを進めます」とあるが、名簿の問題も含めて、行政主導の形でこれを乗り切りたいという気持ちがあり、行政の役割の方に力点を置いた表記にいただきたい。
- 3 住み慣れた地域でともに支え合いながら暮らしています	
1	行政の役割としての、社会福祉協議会との連携や活動への関わりについて明確にする必要はないのか。
2	「見守り体制を充実させ」とあるが、社協をはじめ様々な団体が取り組みを行っているが、各団体間での連携は取れていないのが現状である。行政はそういった団体の連携を促進する役目が必要ではないか。
3	ルート -3の【まちの現状と課題】の2点目に「地域保健福祉センターの認知度を高める必要があります」と書かれているが、これでは手段を目的にしているような気がする。

ルート 誰もが住み慣れた地域で支え合い健康で安心して暮らせる福祉のまち

- 4 生涯にわたって心身ともに健康に暮らしています	
1	保健に関する部分で、母子保健について触れられているので、指標として予防接種の接種率や乳幼児健診の受診率を100%と掲げることで、虐待の早期発見といった取組への姿勢が示せるのではないかと。また「将来にわたって」と謳っているため、乳幼児期の指標を取り入れることでバランスが取れると考える。
2	自宅で最期を迎えたいというニーズが高まっている中、医療機関と関連機関との連携の中でどう対応するか、方向性について記載すべきではないかと。
3	P56[まちの現状と課題]の2点目について、 1文目の児童虐待と2文目の感染症や食中毒を一つの項目に続けるのは不自然なので、二つに分けてはどうか。 「児童虐待の発生予防」だけが文言として出ている。児童虐待の問題も大事だが、今の文章では、それだけが突出して読み取れてしまう。 -4では各ライフステージにおいて生涯にわたって保健サービスを市が推進していくことを言われているので、その一つが母子保健サービスであり、また中高年者に対する生活習慣病予防対策であるということがもう少し伝わる形にした方が、この項目にはよりふさわしいのではないかと。

ルート ともにつながり未来を拓く人づくりを進めるまち

-1 安心して子育てができています	
1	重点取組(3)のタイトルと内容が同じような内容になっている。どこまで具体的に書くかという事情もあるが、工夫して頂きたい。
2	重点取組(1)の「子育て支援事業の連携強化」は、大きいテーマで、もう少し方向性がわかるように記載していただきたい。 その中の3つめ、公私の意味が分かりにくい。 (行政の役割がどのようなもので、どう連携していくのかの方向性を少し入れて頂きたい。)
3	重点取組(2)の「教育・保育の一元化」に関しても、中に書かれていることが大きい。何を具体的にするのか分かりにくい。
4	重点取組(3)の「経済的な支援の充実」に関して、市の独自制度なのか。市町村が権限を持って拡大できることを示さないと、入れる意味がない。
5	まちの現状と課題の1行目、「ほか」というのは、文章としておかしい。
6	重点取組(1)で「地域子育て支援事業」に触れるなど、地域のことで一項目設けてはどうか。市の子育て支援について、一つの柱があった方が良いのではないか。
7	【地域との連携、協働の視点】 子育てサロン、民生委員の新生児訪問など、従来からしている施策に触れられていない。これは、子育ての一環である。 また、行政の問題というか警察の問題になるが、子育ての中に、不審者の問題にもどこかで触れて頂きたい。子どもの見守りはどこの自治会でもやっている。これは、不審者対策である。これを徹底していく必要があると思っている。子育ての中に、どこかで入れて頂きたい。
8	まちの現状と課題に関して、具体性を持たすために数値を示すのはどうか。核家族の割合など、将来の推計もでているので、載せると当事者意識を持って見て頂けるように思う。他人事のように見えてしまうところがある。 また、色々な市民、事業者を巻き込むということが大切。市民・事業者・団体の取組が、誰に言っているのか明らかでない。主語が明示しにくいものだが、誰にしてほしいのか分かりにくい。メッセージが伝わるような書き方があるのではないか。
9	学童保育についての記載がない。
10	2 重点取組と行政の役割(2)「就学前の子どもに関する教育・保育の充実と就労支援」の3点目は、就学後の就労支援が入っているので、タイトルとの整合がとれていない。工夫が必要。
11	留守家庭児童育成室の目的として就労支援を前面に出すと、「安心して子育てができています」という体系での位置づけでは、違和感がある。表現を工夫してほしい。 (一文に異なる主語を想定した文章になっているので、分かりにくい)

ルート ともにつながり未来を拓く人づくりを進めるまち

12	<p>2 重点取組と行政の役割は、具体的にという指摘のもとで、詳しく書いていただいているが、詳細になりすぎて分かりづらい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例示はイメージできるものを一つあげるなど、全てを記載するのではなく、取組で全体がイメージできるものとする ・一文を短くする、または2つの文章に分けるなど
13	<p>直近の国の制度では、「幼保連携型施設」という表現になっているが、「幼保一体型施設」はそれとは別の市独自のものか。 (独自のものであるなら、用語の定義が必要では。)</p>
- 2 配慮が必要な子どもや親が必要な支援を受けることができます	
1	<p>「まちの現状と課題」の表現がわかりにくい。また「障がいの恐れのある」という表現は、不適切である。</p>
2	<p>子育ての中に、障がいを持ったまま大人になる、次のステージに上がる時に、どういう支援があるのか。問題提起させていただきたい。</p>
3	<p>重点取組の(1)児童虐待のネットワーク会議の一番重要な役割は、ネットワークをつくって虐待を早く見つける事。「保護者への指導」という文脈に違和感がある。なにをどうして、虐待を防止するのか。的確な言葉にさせていただきたい。 「保護者への指導強化」は、もう少し具体的に内容が伝わるようにするべきだ。</p>
4	<p>重点取組の(2)ひとり親家庭の自立支援では、「自立に向けた相談」を充実するのではなく、自立雇用情報の提供である。また、職業能力の向上の為に何をするのか。具体策がない。必要な経済的支援とあるが、中身がない。市として何をしていくのか方向性を示していただきたい。 必要な経済支援は、市の独自の裁量でするものでなければ、重点取組にはあたらないのではないか。</p>
5	<p>重点取組の(3)療育システムの充実の障がい児(者)への市民の理解を促進するための取組とは、どういうものなのか。(具体的な事業でなく講座 (啓発、情報提供など) どのようなことを行うのか幅広く施策としての表現ができないものか)</p>
6	<p>「取組の目標」月当たりの障がい児通所サービスの利用者数の指標の考え方の3行目、検証するための指標とあるが、社会参加の促進のための指標であるはずで、文章を修正していただきたい。 可能であれば指標の中に、ひとり親家庭に対する施策の指標があればよい。</p>
7	<p>児童虐待の現状を考えると、小さいときからの心の教育・道徳教育が重要である。 (1)児童虐待の早期発見、早期対応の2つ目の「啓発」や「情報提供」の中にそういうことを含めた表現も考えられるのではないか。</p>

ルート ともにつながり未来を拓く人づくりを進めるまち

- 3 学校・家庭・地域のつながりの中で、子どもたちが自らの学びを高め、成長しています	
1	コミュニケーションの向上、とグローバル化は全く違うものなので、分けたほうが良いのではないかと。 コミュニケーションとグローバル化は、別なのではないか。言葉以外で、コミュニケーション力を鍛えるというのが見えても良いのではないかと思う。
2	この指摘は、意見として受け止めて頂きたい。記述が少ないため、視点がはっきりしないままつなげたように受け止められるのだと思う。
3	市民・事業者・団体の取組のメッセージが弱い。吹田市は、色々な大学があるので、それを巻き込んでいくべきである。そういう意思表示があっても良いと思う。もう一步踏み込んで、連携を図るような意気込みがあっても良いのではないかと。
4	「取組の目標」が漠然としている。市民意識調査の満足度を指標としているが、具体的な目標設定は出来ないか。
5	児童生徒の学習意欲の目標は、全国値に追いつけば良いと読みとれるが、もう少し市が児童生徒の学習意欲をどうしたいと思っているかが読み取れる数値・表現に工夫できないものか。
- 5 「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」生涯を通じて、主体的に学んでいます	
1	生涯学習といえば、公民館は大切な要素である。公民館が、地域拠点として活かされるよう企画委員、館長の研修、地域住民に対する啓発等を触れていただきたい。
2	2 重点取組と行政の役割(3)「地域における生涯学習体制の充実」については、市民が主体的に活動する「市民の学習活動を」行政が支援するというような表現が適当ではないか。
- 6 すべての市民が「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる、生涯スポーツ社会になっています	
1	2 重点取組と行政の役割(1)「体育・スポーツ施設の保全更新・活用」のなかで、「民間事業者のノウハウを活用」とあるが、どのようなノウハウなのか、イメージできるような表現にできないものか。

ルート 健全で豊かな環境を守り引き継ぐまち

- 1 限りあるエネルギーを大切に使う意識が定着しています	
1	<p>環境の意識の高い方にはかなり広まっているが、環境に関心のない方をいかに取り込むかを考えないといけない。</p> <p>また、事業者、市民団体との交流は、もっとあった方が良いと思っている。</p> <p>環境団体と地域の団体との関係をどう進めるか、どう連携していくか。そのプラットフォームづくり、仲介する役割が市役所の今後10年の役割として重要ではないのか。</p>
2	<p>環境教育という点では、学校教育の中などの取り組みを充実させる必要があるのではないかと。</p>
3	<p>- 1の現状と課題の「意識が高まっています」ということが、データに裏付けられているものでなければ、市全体で考えれば、必要性は高まっているが、意識が高まっているとまでいえるのか。</p>
4	<p>75ページ「4 取組の目標」について、目標値が「環境基本計画参照」とあるが、環境基本計画が変わったら目標値も変わるからそちらを見てくれということか。なぜ、総合計画に数値を記載せずに、目標年度が異なる計画を参照していただきとしているのか。将来的に環境基本計画の中で目標数値が見直されれば、その数値を優先せよということか。常に総合計画においては改訂される環境基本計画を見てくださいということになるのか。</p>
5	<p>現在見直し中の環境基本計画において、吹田らしい柱はあるか。政策・施策レベルで吹田ならではの、吹田らしいというような柱はないか。例えば、コンパクトシティをめざした施策を展開するとか、自転車利用促進のために自転車道を優先的に整備するとか、もしあれば、盛り込んでいけば良いと思うが。</p>

ルート 健全で豊かな環境を守り引き継ぐまち

- 2 資源を大切に作る社会システムが形成されています	
1	環境の意識の高い方にはかなり広まっているが、環境に関心のない方をいかに取り込むかを考えないといけない。 また、事業者、市民団体との交流は、もっとあった方が良いと思っている。 環境団体と地域の団体との関係をどう進めるか、どう連携していくか。そのプラットフォームづくり、仲介する役割が市役所の今後10年の役割として重要ではないのか。
2	環境教育という点では、学校教育の中などの取り組みを充実させる必要があるのではないかと。
3	率になっている場合は、どこかに分母分子を書かないと妥当かどうか分かりにくい。 また、リサイクルショップなど、市のルートに載らないリサイクルがある。進捗管理の時に、留意しておかないといけない。(リサイクル率の指標)
4	分別の時も、市民はすっと協力してくれた。ごみの処理に関して吹田市は、しっかりと割と安くしていただいている。市民に協力を求めたほうが良い。 今後の協働の方向性を示す必要があるのでは
5	まちのイメージの説明文の「コミュニティレベルの取組」は市民ぐるみ、地域ぐるみの取り組みとした方が、一般的には分かり易い。
6	2(1)「発生抑制を優先する社会への転換」の3番目には協働についての言及があるが、1番目にも協働してやるという表現があるのではないかと。主体は行政だけではないということ表現してはどうかという指摘である。市民協働で頑張っているのが本市の特徴で、それを表現してはどうか。
7	指標のリサイクル率の括弧書きの「市の関与する」という表現がいろいろな解釈ができて分かりにくいので、分かりやすい表現にしてはどうか。

ルート 健全で豊かな環境を守り引き継ぐまち

- 3 健康で快適な暮らしを支える環境が保たれています

1	<p>環境の意識の高い方にはかなり広まっているが、環境に関心のない方をいかに取り込むかを考えないといけない。</p> <p>また、事業者、市民団体との交流は、もっとあった方が良いと思っている。</p> <p>環境団体と地域の団体との関係をどう進めるか、どう連携していくか。そのプラットフォームづくり、仲介する役割が市役所の今後10年の役割として重要ではないのか。</p>
2	<p>環境教育という点では、学校教育の中などの取り組みを充実させる必要があるのではないかと。</p>
3	<p>「まちの現状と課題」で、「二酸化窒素濃度等について目標値を達成していません」と記載があり、その答えとして「重点取組と行政の役割」に「典型7公害に関して監視体制の充実」とある。二酸化窒素に関して具体的にここで書けないか。</p> <p>【吹田市は、二酸化窒素に関して、本市では環境基準よりも非常に厳しい独自の基準を設けている。】</p> <p>監視の体制の充実を図るといふ事しか受け取れない。吹田市がよくやっているということが伝わるようにした方がよい。</p> <p>二酸化窒素の話だけではなく、「今達成できていないものに対してより監視を強化し対策をとっていきます」という少し方向性や内容が分かるようなものにした方がよい。</p>
4	<p>ヒートアイランドの問題に関して、熱吸収という形はあるが、熱発生の抑制というのが、事業者の対策誘導に含まれている話だと思う。これは、省エネと連動する。熱発生、熱吸収という何段階構えになっている。熱発生の抑制が分かるように記載できないか。</p> <p>風の道、コンパクトシティ化など、連携の内容に書き込めないか。都市計画課が踏み込んでいないと書けないものだが、積極的な先進的な取り組みが入っていればと思う。</p>
5	<p>市が掃除するのではなく、市民が掃除する。そういう運動をどう起こしていくか。</p> <p>表彰制度等の啓発で市民・企業の活動が広がっていくのでは。</p> <p>権力を行使できるというのが行政の役割。そういう意味での役割分担を進めていく。</p> <p>生活環境(78ページ)の重点取組と行政の役割の(2)環境美化の推進の文言「公共空間の環境美化に取り組みます」だけでは、行政が自分で頑張るのかということになる。「企業・住民との連携を強化して全市的な取り組みに発展させます」などの文言があれば、協働の視点が見えてくるのではないかと。</p>
6	<p>2(3)「ヒートアイランド対策の推進」にある「アスファルト対策」という表現は人によってとらえ方が変わってくるので、市民にとって分かりやすい表現にすることが大切である。例えば「透水性舗装によるヒートアイランド対策」という表現ではどうか。</p> <p>また、「緑化」、「アスファルト対策」に対して、節エネ・省エネという表現は大まかな表現に思える。熱の発生抑制と蓄熱の抑制というように分けた方がレベルも揃うし、良いのではないかと。</p>

ルート 誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち

- 1 暮らしを支える都市機能が充実した魅力あふれる都市が形成されています	
1	- 1の「市民・事業者・団体の取組」で、「計画づくりなどへの参画」と入っていたのが消えて、積極的な市民が関わる仕組みが、- 1全体的に消えてしまったように思う。修正前の方がいいのではないか。
- 2 住みたいまちに選ばれる安心で良質な住まいづくりが進んでいます	
1	シェアハウスという新しい住スタイルや、「住み開き」などの新たな動きに対してどうコミットしていくのか。 住宅がコミュニティ作りとか、地域の活性化につながっていく。そういう新しい動きが入っていない。
2	住宅の借り上げというのはいい。全国で、700万戸くらい余っている。市が新しく住宅を建てないといけないということは、絶対がない。そういうことがあげられたらいい。 今まではそれを公営住宅で抱えてきたが、そのような新しい展開というのを書けないか。
3	公的住宅・敷地の活用により地域コミュニティの拠点整備を進めますということなのか。コミュニティを推進するために計画設計をどうするのかということか。二つあるのであれば、はっきりさせて分かるように書く。誤解を招くと思ったのは、公的住宅を中心とした地域コミュニティとは何か、ということ。
- 3 みどりが保全・創出・活用され、市民に親しまれています	
1	量的には公園整備は済んでいるので住宅地の緑化を重点的にしていく、公園の質を上げていくという方向性を明確にする必要がある。
2	制度を変えていくと書いてあるが、具体的にどういう協働の姿を出していくか。
3	重点取組の(3)は体系的総合的な緑化の推進の話だと思う。「緑のまちづくり」という漠然として、意図がタイトルから分かりにくくなっている。 民有地の活用を書いているわりには、方策が進んでいない。それが課題であり、それを進めるための方策が取組のところで書かれているものだと思う。
4	- 3の「重点取組と行政の役割」の中で「協働」という形になっているが、設計、計画段階から市民参加、協働を展開するのは無理か。 例えば公園ワークショップのような形で計画段階から協働で取り組むということ。 「計画から維持管理から様々な場面で市民参加・協働に取り組み、…」と書いていただくと手段と結果が明確になる。
- 4 自動車に過度に依存しない交通環境整備が進んでいます	
1	- 4、- 5、交通と道路はまとめて一つにならないのか。その方が、インパクトが強く方向性がはっきりする。
2	高齢化が進む中で、交通の便が悪いように感じる。福祉巡回バス(きぼう号)が廃止された中でなにか手立てする必要はないのか。

ルート 誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち

- 5 誰もが安全で快適な道路環境整備が進んでいます	
1	- 4、 - 5、交通と道路はまとめて一つにならないのか。その方が、インパクトが強く方向性がはっきりする。
- 6 安定した安心安全の水道が利用できています	
1	上水や下水のところも、例えば、災害リスクの低減というのは、参考資料の中では非常に優先順位が高く、ここを重点的にしていくということが参考資料では分かるが、ロードマップでは曖昧になっている。(重点的な課題の認識を明確に)
2	-6、 -7も、水関連で一緒にならないのか。書かれていることが、維持管理など同じ話もあり、雨水利用は節水の方にもつながる。つなげた方が展開の方向性が見える。担当は違うが、つなげた方がいい。
- 7 下水道施設が計画的に整備され安心安全快適な暮らしができています	
1	上水や下水のところも、例えば、災害リスクの低減というのは、参考資料の中では非常に優先順位が高く、ここを重点的にしていくということが参考資料では分かるが、ロードマップでは曖昧になっている。(重点的な課題の認識を明確に)
2	-6、 -7も、水関連で一緒にならないのか。書かれていることが、維持管理など同じ話もあり、雨水利用は節水の方にもつながる。つなげた方が展開の方向性が見える。担当は違うが、つなげた方がいい。

ルート 支え合いと備えで安全に暮らせるまち

- 1 防災への備えをはじめ危機管理体制が確立しています	
1	今のまちのイメージの構成は、行政の所管毎という構成となっているが、日々の生活に関連する「生活安全」と滅多に起きない事に備えるという「消防防災」など、異なった視点での構成もありうる。
2	消防は専門性が高い分野、一方、防災は地域の人と共に取り組む分野というように、分けた方が分かりやすいという考えもある。
3	BCPというキーワードはあった方が良い。
4	防災に関する様々な情報を提供するという視点が重要である。 また、情報を出して、どう浸透させるのかということも行政の重要な役割であるので、それを意識して書きぶりを見直していただきたい。 Ex)ハザードマップに関する事はいれるべきだと考える。 但し、作成し周知してもらうことによって本来の目的が達成されるという視点も入れるべき。 防災拠点の避難場所の明示、防災機材の倉庫の位置を表示できるのであればどこかで明示していただきたい。
5	【指標について】 地域の防災というところで、自主防災組織の結成は重要であるため、その目標値として自主防災組織結成率を数字として入れた方が分かりやすいのではないか。
6	「他の施策との連携」に関して、 ルートの都市形成の -2(住宅政策)、 -3(みどり、公園)、 -6(水道、給水訓練)、 -7(下水道)で防災と連携すると記載されているので、防災の方でも記載した方が良いのではないか。
7	説明では「地域ごとにあつた防災計画をつくる」ということだったが、ロードマップでは「見直し」としか書かれていない。 もう少し分かり易く書かれていた方が良いのではないか。
8	重点取組「(2)地域防災力の向上」を協働という観点で行政がする役割をあげると、「情報提供」、「活動支援」、「啓発活動」がある。そういうことがもっと表現できた方が良いのではないか。 重点取組について、ざっくりとした分け方で記載されているので、内容が見えてこない。 また、「させます」という表現は、地域に支援をしていくという行政の役割から考えると適切でない。(上から目線に見える。)
9	「災害に備えている市民」という表現は分かりにくい。 また、その割合が21%程度というのは明らかに不十分であるので、市としてどの程度まで持っていきたいと考えているのか、という水準が設定をし、それが表せばいいのではないか。
10	「2 重点取組と行政の役割」の地域防災計画の見直しの取組はどのように行うのか。協働で行うのであれば、そのような表現が必要ではないか。

ルート 支え合いと備えで安全に暮らせるまち

- 2 犯罪が少なく安全で安心して過ごしています	
1	今のまちのイメージの構成は、行政の所管毎という構成となっているが、日々の生活に関連する「生活安全」と滅多に起きない事に備えるという「消防防災」など、異なった視点での構成もありうる。
2	防犯の「まちの現状と課題」で「事故や犯罪被害を未然に防ぐ」の「事故」というのは、どのようなことを想定しているか。 重点取組には事故に関する記載が見当たらないので、整合を取る方が良い。(事故という記載の有無)
3	防犯の分野に連携の記載が全くないが、実態としてコミュニティや人権教育など他の施策と連携しているものがあるのではないか。
4	101ページ「6 他の施策との連携」の「 - 2 人権」の記述「防犯の視点で人権教育と連携を図ります。」について、もう少しストレートで分かりやすい表現は無いものか。他人への思いやりの心が犯罪を防ぐ、自分勝手な振舞いが犯罪につながるという観点からは、例えば、人権教育を通じて思いやりの心を育むことで犯罪防止に努めます、など、どのようなことをやっていくのかということ、具体的に書いた方が良いのではないか。
5	100ページの「3 市民・事業者・団体の取組」の4つ目「地域の防犯活動等への協力」について、具体的な団体名の記載が無いが、これですべてを網羅しているということか。より具体的になるように固有名詞を挙げてはどうか。

ルート 支え合いと備えで安全に暮らせるまち

- 3 備えと予防ができており安心できる消防体制が確立しています	
1	今のまちのイメージの構成は、行政の所管毎という構成となっているが、日々の生活に関連する「生活安全」と滅多に起きない事に備えるという「消防防災」など、異なった視点での構成もありうる。
2	消防は専門性が高い分野、一方、防災は地域の人と共に取り組む分野というように、分けた方が分かりやすいという考えもある。
3	消防の「まちのイメージ」で記載されている「(や事故)」という表現が分かりにくい。意味のない“()”は外すべき。 ただ、事故を減らすことはあまり書かれていない。事故に関する記載の有無を再度検討されたい。 また、事故を記載するのであれば、こういった事故を対象とするのかを明確にして記載して頂きたい。
4	消防の「まちの現状と課題」に「災害を未然に防ぎ」とあるが、災害は未然に防げないものであるので、文言について再度検討されたい。
5	【指標について】 「年間の火災件数」とあるが、何を重点的に取り組むかに関連するが、仮に地域の自主消火組織に関する取組を重点化するのであれば、それに表す指標(自主消火組織数の推移)にした方がよい。
6	【審議会の指摘ではないが】 救急救命講座の受講者数は累計になっているとの説明であったが、そうなると何もしなくても増えることが当然であるので、目標値を、具体的な数値にするか、年間の受講者数にする、などの変更をしないと指標の設定の意味が分からない。
7	103ページ「6 他の施策との連携」について、記載がないが、消防施策は、都市計画や建築と、防火、耐火などという面では関わるのではないかと。大阪府全域で準防火地域の指定を増やしていることもあるので、記載してはどうか。例えば、密集市街地の狭小な道路の拡幅や、マンションには消火活動用のスペースを設けるなど、まちの構造を消防活動が行いやすいようにしていく工夫がされていると思うが、そのようなことから、都市計画と一緒に、防火だけでなく消火活動がやりやすくなるように変えていくということも連携の1つではないかと考える。
8	102ページ「3 市民・事業者・団体の取組」で、他の施策と比較すると個別具体的な記述が多い。他とのバランスを考えて、長期的な計画であることを見据えた記述の方が良いのではないかと。個人の意識の啓発、地域への展開、法令遵守などいくつかのタイプに分かれるので、具体的名前は残しながら集約してはどうか。
9	103ページの「4 取組の目標」の「普通救命講習会等の受講者数」について、累計であることを明示する必要がある。
10	吹田市は地域特性・地域資源が各地域でそれぞれ違うので、2-(1)「消防体制の整備・充実」の中に、「地域特性に応じた整備充実を図ります」という文章を入れてはどうか。
11	地域住民の意識の問題として、この地域はこういうことに気をつける必要があるといった地域住民への教育にも取り組むという内容があった方が良いと思う。

ルート 人が集い、企業を育む、都市魅力あふれるまち

- 1 元気な企業が集積しています	
1	参考資料の1ページのと、106ページのロードマップの具体的な施策の中身が整合していない。 - 1、 - 2は今日の説明の方が良くわかるので、参考資料1の内容に置き換えた方がよい。
2	開業率では吹田は既に高いポジションにある中で目標は「上向き」とあるが、これは今後も引き続き高いポジションを維持する事をめざすのか。矢印だけではどれぐらいの水準を目指すのか分からない。
3	事業所数は減ってきている。色々な施策を講じて、開業率は上げていく。 廃業率については、5年以内の事業者を如何に支援するかということによって事業の継続性を持たせていくことが課題 開業率と廃業率を逆転させて、事業所数を増やしていく等の考え方を基本計画(素案)に入れて頂きたい。
4	企業を育てるための対策をとっていくという姿勢が行政の中に見えない。 企業振興の中に定着支援について書いてあるが、もっと表に出せということ。
5	吹田は住宅都市のようになっているが、人間が生活していくためには経済活動がないといけな い。もっと町の中に人が集まれるような催しなどを考えていかなければいけない。 よその地域に人も客も取られていってしまうような気がする。吹田の独自性のあるものを打ち出 していかないといけない。 住と産業が共生、協働するような都市づくりをしていくということ、吹田の方向性として打ち 出していく必要があるのではないかと。 * 連携: 土地利用誘導などまちづくりとの連携(- 1 都市整備)
6	旧市街と違いニュー・タウンには商店街はない。そういった点も踏まえて表現を考えてもらいた い。 ニュー・タウンの開発をどうするのか。近隣センタ - などについても、何らかの方向性を出してい ただいたらありがたい。 地域特性、地域課題に応じた対応をという事である。
7	企業誘致について、事業所が抜けた後、土地利用転換にならないような形で誘致をする。それ を書いた方がよい。 吹田の方向性、地域特性が浮き彫りになるような形で、書けないか。
8	106ページに「ブラッシュアップ」という言葉があるが、日本語で出来るところは日本語にして頂 きたい。 ここは、「魅力向上」ということでいいか。他のところでも同じ。 ブラッシュアップは、磨き輝かせという意味でとらえている。
9	106ページの中小企業の「ワンストップサービス」とは何か。マッチングも適当な日本語がないの か。 相談窓口一元化、あるいは総合的、総長期雇括的な相談機能の充実ということではない か。
10	今後10年を考えたときに、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスは大切になってくる。 産業、就労の観点でも、新たな働き方が出て来ている。そこを見据えながら、それぞれの施策 が展開するように書いた方がよいのではないかと。 従来型の就業形態をとらない人がいる。そういうものをきちんと位置づけておく事。職住近接の 受け皿としても、重要である。 中小企業との連携も可能になってくる。 プラットフォームを商工会議所、産業振興部局でタイアップして取り上げておくというのも重要だ と思う。

ルート 人が集い、企業を育む、都市魅力あふれるまち

- 2 いきいきと働きがいをもって就労できる環境が整っています	
1	参考資料の1ペ - ジのチャ - トと、106ペ - ジのロ - ドマップの具体的な施策の中身が整合していない。 - 1、 - 2は今日の説明の方が良くわかるので、参考資料1の内容に置き換えた方が良い。
2	参考資料の4ペ - ジのスライド4に示している内容の方が、方向性が明確である。内容を置き換えて頂きたい。
3	今後10年を考えたときに、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスは大切になってくる。産業、就労の観点でも、新たな働き方が出て来ている。そこを見据えながら、それぞれの施策が展開するように書いた方が良いのではないかと。 従来型の就業形態をとらない人がいる。そういうものをきちんと位置づけておく事。職住近接の受け皿としても、重要である。 中小企業との連携も可能になってくる。 プラットフォームを商工会議所、産業振興部局でタイアップして取り上げておくというのも重要だと思う。
4	中小事業所とはどういう意味か。大企業の吹田の事業所もふくまれるのか。 大企業の吹田の事業所に対する手立ても必要というイメージであった。市内で働いている方々の支援は、おしなべて必要ではないかと考えている。
5	就労の部分で、雇用形態が多様化している中で、長期雇用が善とするのはどうか。 誤解を招かないような言葉があれば置き換えていただければ、働き続けられることが重要である。
- 3 安心して消費生活を送れる環境が整っています	
1	消費者と事業者のマッチングだけでなく、消費者の行動についても、吹田にもう少しお金を落とすように変えていかないと、いくら事業者が頑張っても形になっていかない。 そういう意味で、 - 3に経済循環がまわるような消費行動を促すようなことも、書き込んで頂くと新たな展開があると思う。